F06602

施工説明書

2009.1

特定保守製品

TOTO

浴室換気暖房乾燥機 三乾王（日本国内専用）
TYR260/261/265/266型

安全のために必ずお守りください。

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

●この製品は、平成21年4月1日施行の消費生活用製品安全法（消安法）で指定される「特定保守製品」です。
●この説明書では製品を安全に正しく取り付けていただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表　示	意　味
⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

表示	意味	表示	意味
⃠	一般禁止	⏚	アース線を必ず接続せよ
⃠	分解禁止	⚠	発火注意
⚠	回転物禁止	⚠	感電注意
❗	必ず実行		

警告

ファンやヒーターに触ったり、物を差し込まない
感電、けが、やけどのおそれがあります。

内釜式ふろを設置した浴室では使用しない
排気ガスが浴室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすことがあります。

温泉水などを引き込んでくる浴室では使用しない
製品が腐食して、漏電や製品が故障するおそれがあります。

絶対に分解したり、修理、改造は行わない
火災、感電、けがの原因になります。

接続が不適切な場合は、漏電、感電、発熱および発火・火災になるおそれがあります。

《工事における注意項目》
・電気工事は電気設備技術基準や内線規定に基づき、電気工事士の免許を持った方が行う。
・電源ケーブルはφ2mmの単線（VVFケーブル）を使用し、確実に接続する。より線は使用しない。
・圧着端子の接続には、それぞれの端子に合った、JISに定められた専用圧着工具を使用する。・電源ケーブルは確実に接続、固定する。また差し込み不足に注意する。
・改造は絶対にしない。特に棒端子付きの電線の場合は、棒端子部は絶対に切らないでください。　・電源ケーブルを束ねたまま配線しない。

《設計・設置上の確認項目》
・浴室は湿度が高いため、分電盤に漏電遮断器を設ける。　・機器容量にあった専用ブレーカーを取り付ける。
・電力会社との契約電気容量が不足している場合は、追加工事を行う。

《工事前の確認項目》
・電気工事は必ず分電盤の浴室換気暖房乾燥機用ブレーカーを切って行う。　・電源電圧を間違えないように注意する。
・電源ケーブルを束ねたまま配線しない。・電源ケーブルなど、機器の配線は、発熱する器具（ダウンライトや浴室換気暖房乾燥機）から離して設置する。
・メタルラス張り、ワイヤラス張り、金属張りの木造建築に金属ダクトが貫通する場合は、電気的に接触しないように取り付ける。
・屋内配線はφ2mmの単線（VVFケーブル）を使用し、確実に接続する。より線は使用しない。接続が不十分だと火災のおそれがあります。

指定する電源以外では使用しない
火災・感電の原因になります。

アース（D種接地）工事がされていることを確認する
アース工事がされていないと故障や漏電のとき、感電する原因となります。アース工事はお近くの工事店にご依頼してください。

⚠注意

ランドリーパイプは、推奨位置より本体に近づけて設置しない
ランドリーパイプが過熱し、やけどのおそれがあります。

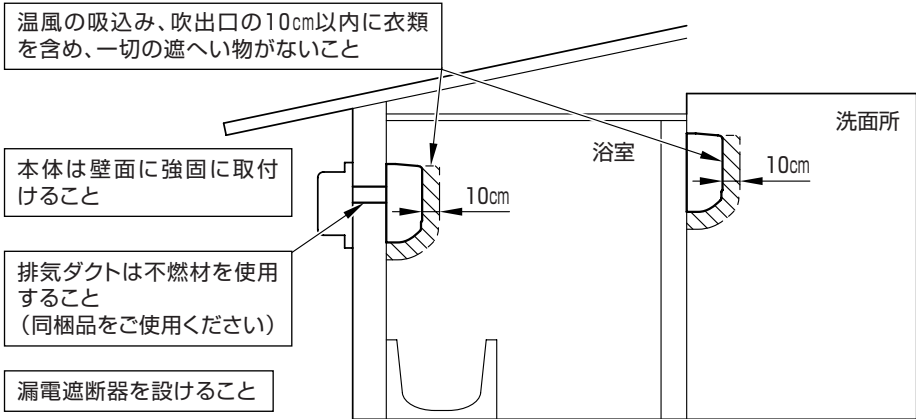
運転中、ファンやルーバーに触れたり、物を差し込まない
回転による傷害のおそれがあります。

カバーや室外機ふたを外しているときは、ブレーカを切る
また、吹出口に物を差込まない
感電するおそれがあります。※本体停止中も通電しています。

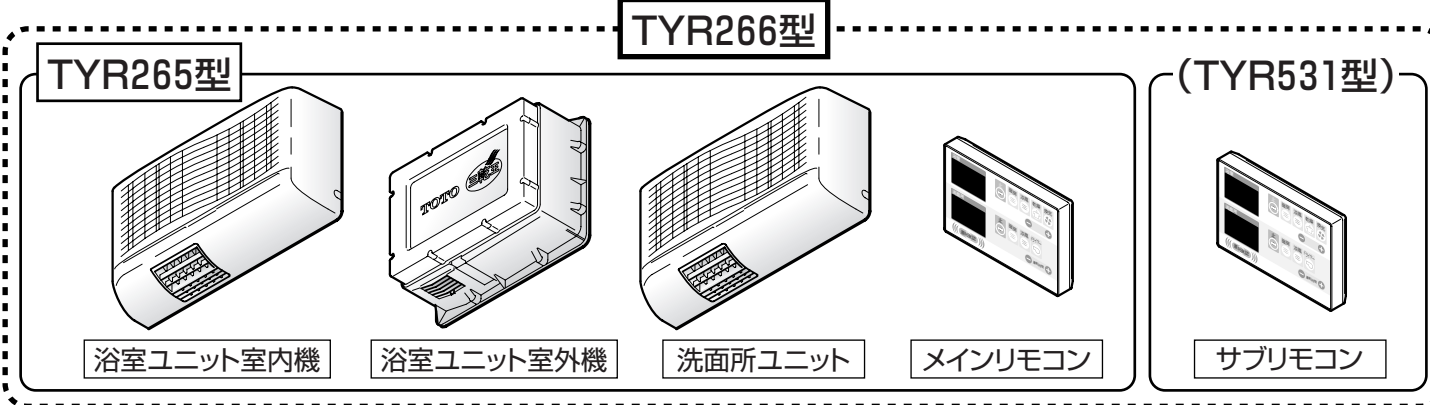
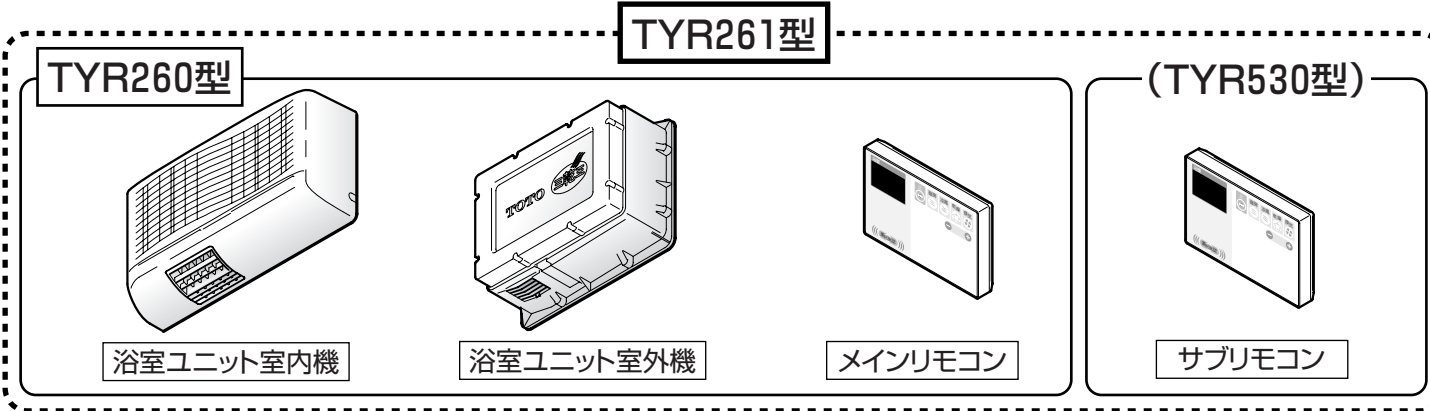
機器の取り付けは、確実に行う
製品質量【約4.9kg（浴室ユニット室内機）、約3.8kg（浴室ユニット室外機）、約5.7kg（洗面所ユニット室内機）】に耐えるよう設置方法に従って取り付ける
本体落下による傷害のおそれがあります。

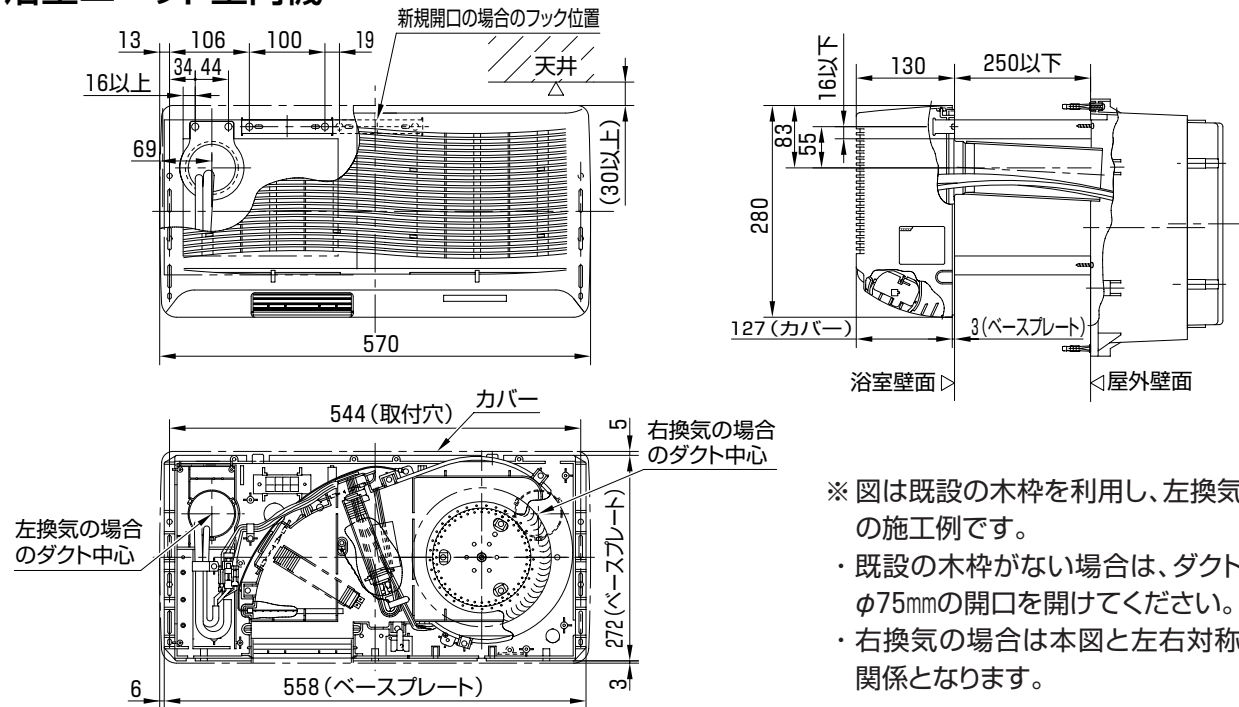
お願い

● 消防法関連のお知らせ
本製品は、「平成14年 消防庁告示第1号の基準に基づく離隔距離適用品」です。
浴室換気暖房乾燥機の取付けに関しては、防災上の規制がありますので、不明な点は所轄の消防署等にあらかじめご相談ください。
（本機器は、社団法人 日本電機工業会で定める「組み込み形などの浴室用衣類乾燥機の自主試験基準」に適合しています。）

（例）東京消防庁設置基準

はじめに

このたびは、TOTO浴室換気暖房乾燥機をお求めいただき、まことにありがとうございました。
取付けの際は、製品の機能が十分発揮されるように、この説明書にそって正しく取付けてください。
■商品にはお客様用として、取扱説明書が同梱されています。工事完了後は必ずお客様へお渡しください。
■取扱説明書に付属の保証書には、店名及びお取付日を必ず記入してください。

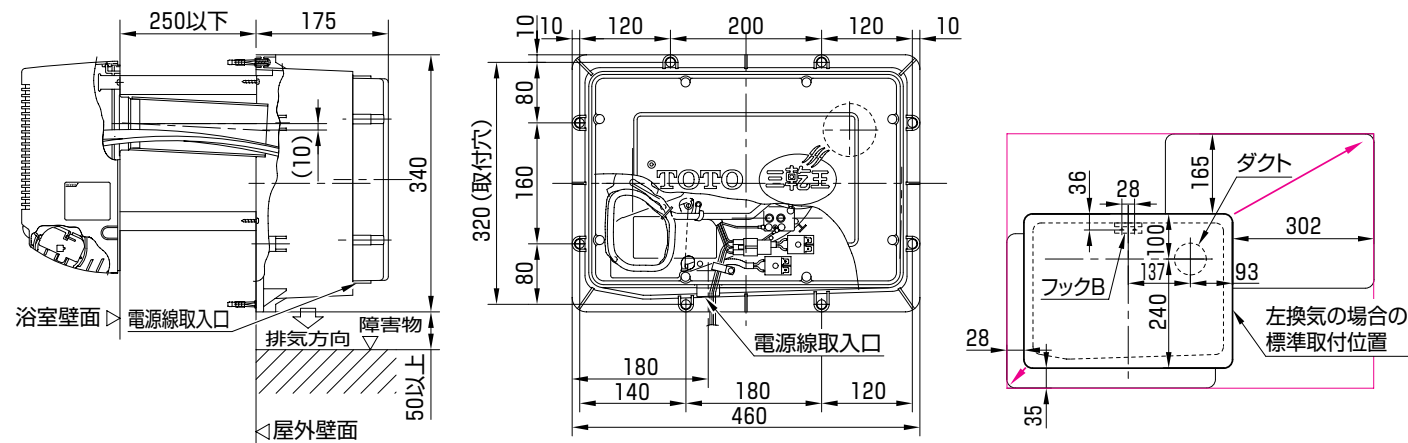
製品の構成

外　形　寸　法　図

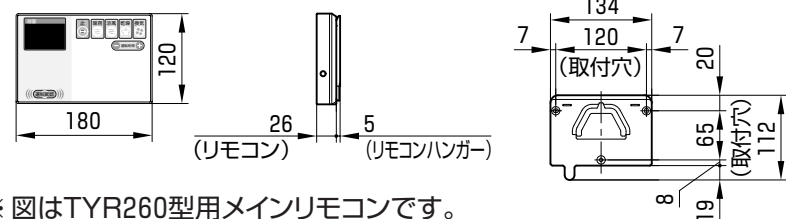
1. 浴室ユニット室内機

※ 図は既設の木枠を利用し、左換気の場合の施工例です。
・既設の木枠がない場合は、ダクト位置にφ75㎜の開口を開けてください。
・右換気の場合は本図と左右対称の相対関係となります。

2. 浴室ユニット室外機

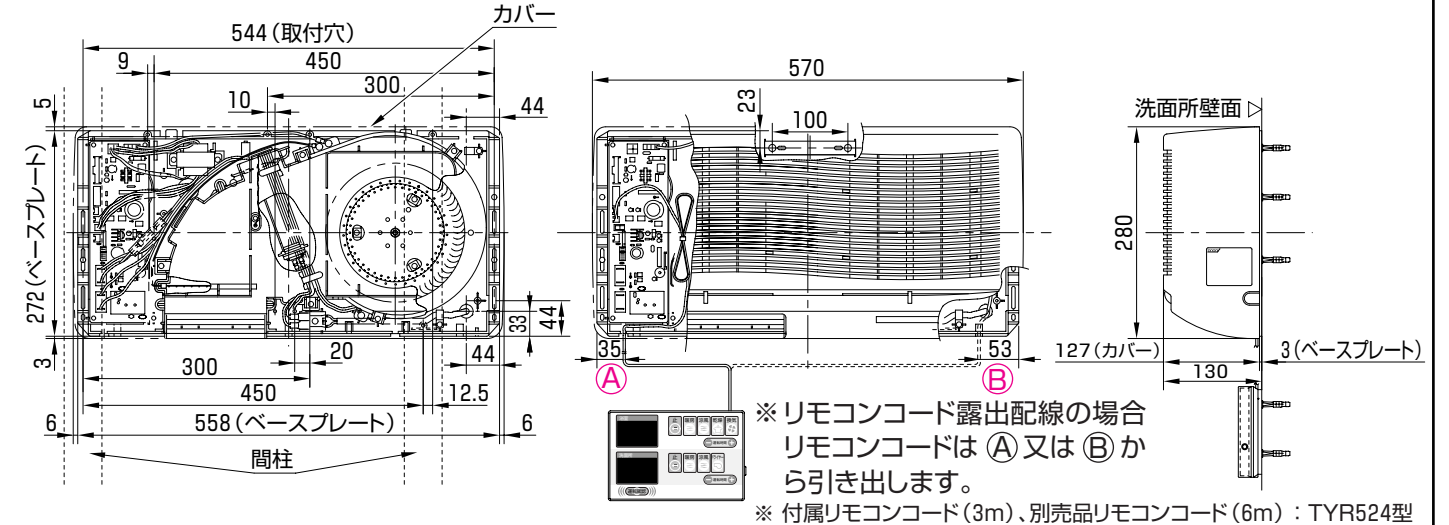
250以下　175　(10)　340　浴室壁面　電源線取入口　排気方向　障害物　50以上　屋外壁面

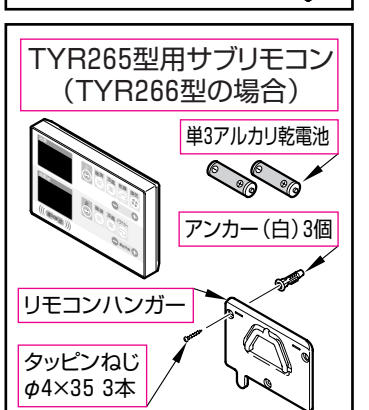
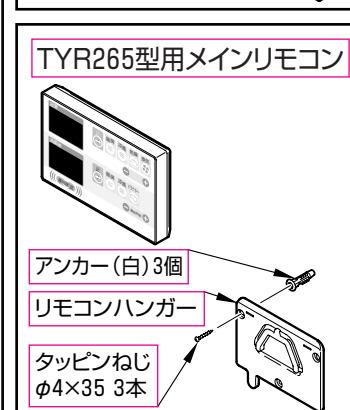
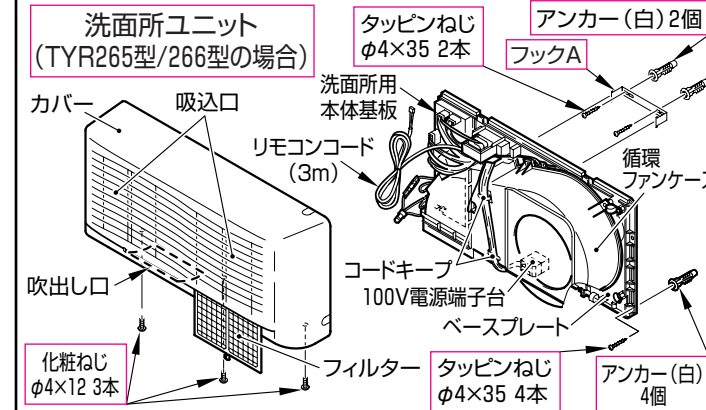
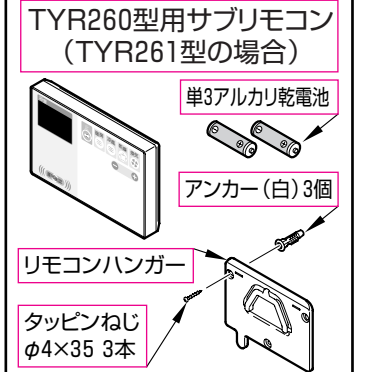
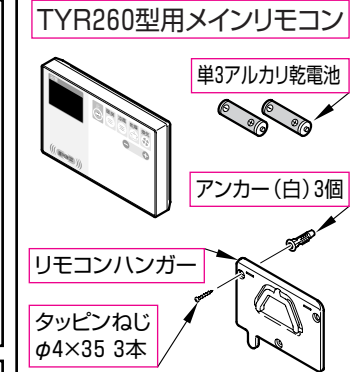
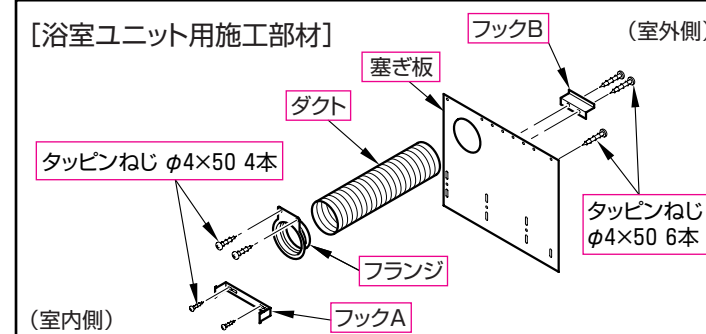
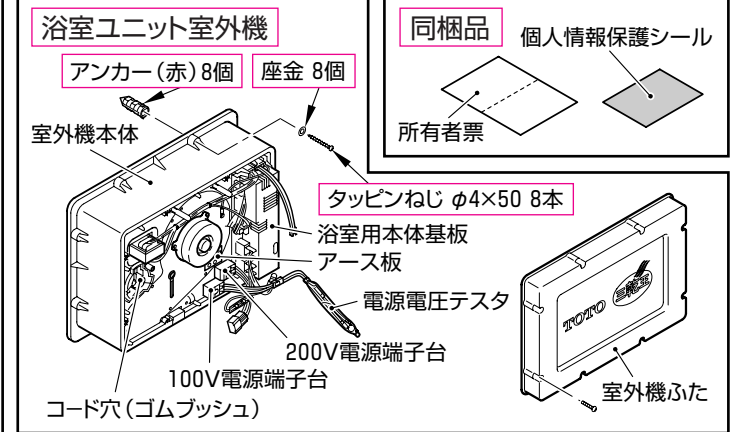
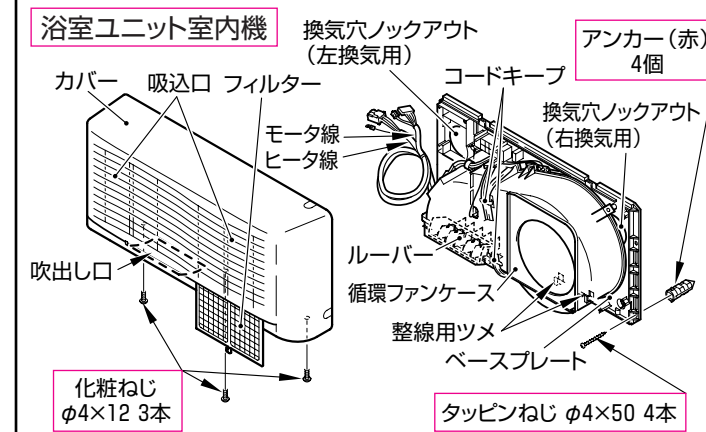
320（取付穴）　電源線取入口　180　140　180　120　460

ダクト　302　フックB　左換気の場合の標準取付位置

※ 室外機は、上図のように標準取付位置に対し、赤線の枠内でオフセットして取付可能です。（ただし、木枠を塞ぐなどの別途工事が必要になる場合があります。）
・右換気の場合は、左右対称の相対関係になります。

3. リモコン,リモコンハンガー

※ 図はTYR260型用メインリモコンです。
リモコンは全て同じ外形寸法です。

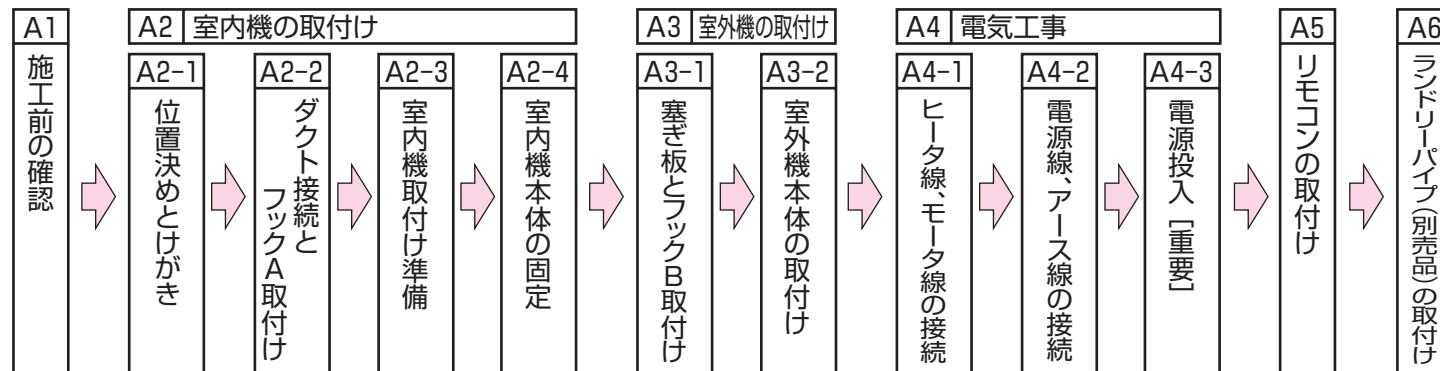
4. 洗面所ユニット（TYR265型/266型の場合）

※ リモコンコード露出配線の場合
リモコンコードは Ⓐ又はⒷから引き出します。
※ 付属リモコンコード（3m）、別売品リモコンコード（6m）：TYR524型

各部のなまえと部品の確認

□で囲った部品の有無を確認してください。

A.浴室ユニットの施工方法

お願い

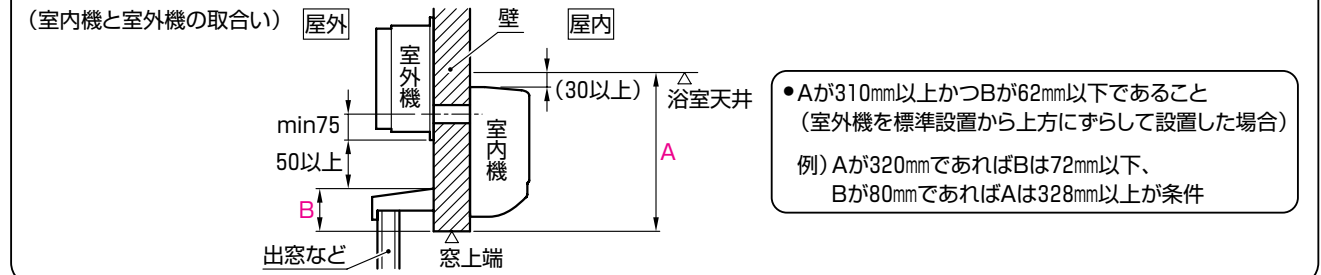
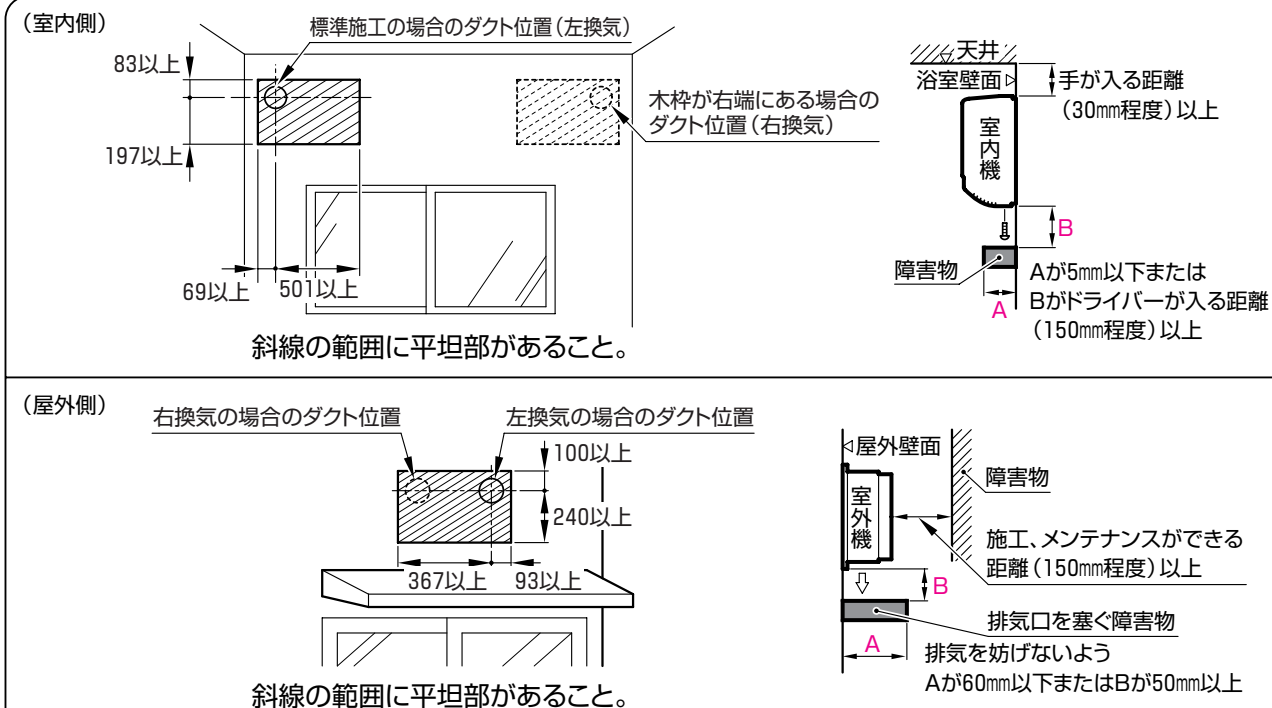
- ガスレンジの上など高温になる場所に取付けないでください。故障のおそれがあります。
- 浴室のドアなどに空気取入口を設けてください。換気や乾燥性能が悪くなるおそれがあります。空気取入口を設置できない場合は、換気・涼風・乾燥のとき、浴室のドアを少し開いて使用していただいてください。
- リモコンは浴室の中や水がかかるところに設置しないでください。防水仕様ではありません。

施工手順

A1 施工前の確認

■施工前に準備するもの

- 電動ドライバーなどの工具類
- 電源線、ブレーカなどの電設資材
- コーキング剤
- アルミテープ
- 脚立
- 養生シート
- 錆防止剤（塩ビ鋼板への取付けの場合）
- 必要に応じ下記取付板など

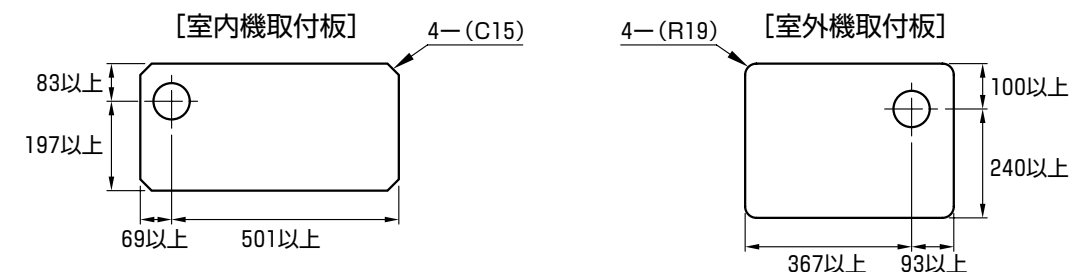
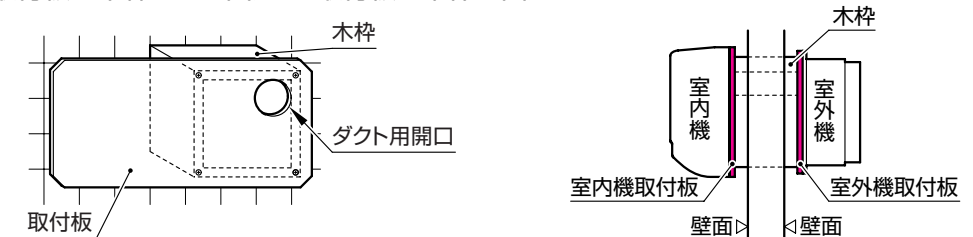
■浴室ユニットの設置条件

1. 屋外に面する壁がないと取付けできません。
2. 壁厚は250㎜まで設置可能です。
3. 壁面に室内機及び室外機を取付可能な平坦部があること。また、施工やメンテナンスを妨げる障害物がないこと。

4. 木枠内面が壁や天井から右図の距離以上離れていること。

天井面　壁面　(68)以上　木枠　30以上
※右換気の場合は左右対称の相対関係となります。

5. 取付後のメンテナンスのために、室外機のまわりには人や脚立などが入るスペースを確保してください。また室外機の取付け高さは、市販の脚立やはしごを使ってメンテナンスできる高さにしてください。
6. ランドリーパイプ（別売品）を推奨位置に取付けできること。（「A6 ランドリーパイプの取付け」を参照）（推奨位置に取付かないと乾燥時間が長くなることがあります。）
7. 以下のような場合には、現場手配にて別途工事が必要になります。
   (1) 壁が土壁などで、本体の質量を支持できない場合 ➡壁の補強工事などが必要です。（浴室ユニット室内機4.9kg、浴室ユニット室外機3.8kg）
   (2) TOTO以外のシステムバスの塩ビ鋼板への取付けの場合で鋼板の厚みが0.45㎜未満の場合 ➡ 壁裏補強が必要です。（鋼板の厚みについては、システムバスのメーカーにご確認ください。）
   (3) 分電盤に200Vがきていない場合 ➡ 所轄の電力会社への連絡、200V電源の引き込みなどが必要です。
   (4) 分電盤に空きブレーカがない場合 ➡ エンクロブレーカ（単体露出工事用小ブレーカ）などの設置が必要です。
   (5) ブレーカ容量（契約電流）が足りない場合 ➡ 所轄の電力会社へ連絡し、契約電流の変更が必要です。
   (6) 既設の木枠内にダクトを通せない場合 ➡ φ75㎜の新規開口が必要です。
   (7) 既設の木枠が大きく、本体からはみ出す場合 ➡ 木枠を塞ぐ工事が必要です。
   (8) 木枠が壁面から凸となっている。外壁の凸凹が大きく室外機を密閉できない場合 ➡下図のような取付板などの準備が必要です。

例. 既設の木枠が壁面から凸となっている場合

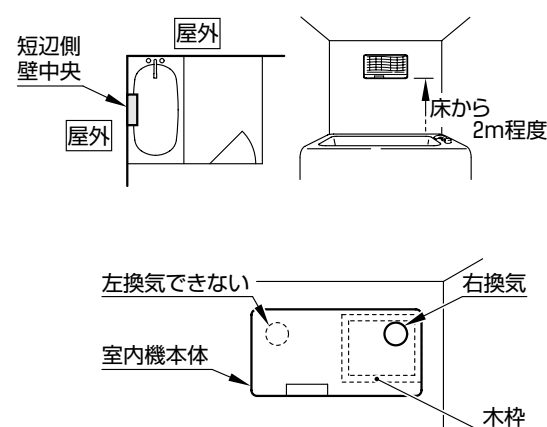
①次のような取付板を準備し、ダクト位置に開口を設けます。（取付板材質:耐水性合板、厚さ9～16㎜）

②準備した取付板を木枠などに固定し、取付板に本体を固定します。

A2 室内機の取付け

A2−1 位置決めとけがき

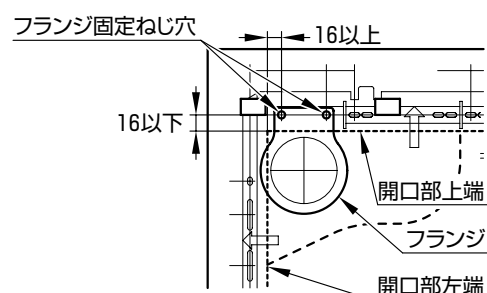
①室内機本体の取付位置を決めます。
- 「A1 施工前の確認」の「浴室ユニットの設置条件」を参照し、取付位置を決めます。
- 利用可能な既設木枠がある場合は、木枠位置が本体取付位置になります。
- 取付位置に自由度がある場合は、右図の位置（短辺側 壁中央）をおすすめします。

②ダクト位置を決めます。
- 右図のように木枠が壁の右端にある場合のみ右換気（室内機正面から見て右端にダクトを接続）とします。

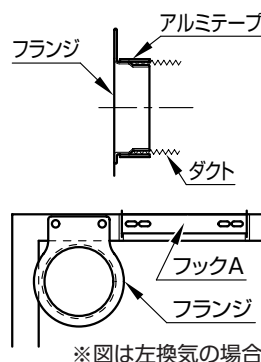
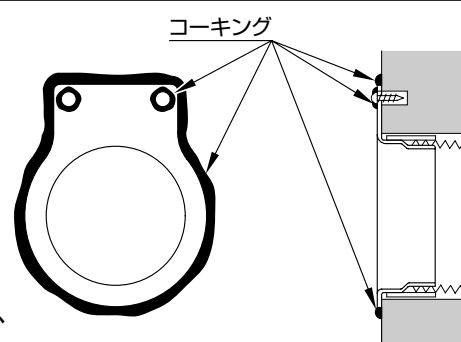
右図以外の場合は、左換気としてください。

③同梱の型紙を使用して、フックA、フランジ、本体の固定ねじ位置をけがきます。

【新規開口の場合】
同梱の型紙を利用して新規開口穴中心（ダクト位置）をけがき、壁に開口します。塩ビ鋼板の場合、小口に錆防止剤を塗布します。

【木枠がタイルなどで隠れている場合】
右図のように、開口部上端から16㎜以下、開口部左端（左換気の場合）から16㎜以上の位置にフランジ固定ねじ穴がくるようにけがきます。

フランジ固定ねじ穴　16以上　16以下　開口部上端　フランジ　開口部左端

A2−2 ダクト接続とフックA取付け

①同梱のダクトの長さを、押しつぶすか切断して壁の厚さと同じにします。
②右図のように同梱のフランジにダクトをはめこみ、接続部をアルミテープなどで固定します。
③A2−1でけがいたフランジ固定ねじ位置に下穴を開け、ダクトを取付けたフランジを同梱のタッピンねじ（φ4×50）で固定します。
④A2−1でけがいたフックA位置に下穴を開け、フックAを同梱のタッピンねじ（φ4×50）で固定します。

※図は左換気の場合

【タイル壁、モルタル壁に固定する場合】
① フランジ、フックA固定ねじ位置にφ6㎜の下穴を開け
② 下穴にコーキング剤を注入し同梱のアンカー（赤）を埋込み
③ フランジ、フックAを同梱のタッピンねじ（φ4×50）で固定します。
④ 新規開口の場合、右図のようにフランジの外周、フランジ固定ねじ周囲をコーキングします。

【塩ビ鋼板（システムバスなど）に固定する場合】
① フランジ、フックA固定ねじ位置にφ2.8㎜の下穴を開け、コーキング剤を注入し、
② フランジ、フックAを同梱のタッピンねじ（φ4×50）で固定します。
③ 新規開口の場合、右図のようにフランジの外周、フランジ固定ねじ周囲をコーキングします。

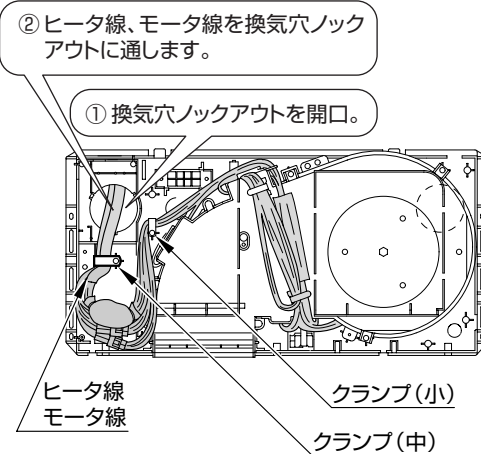
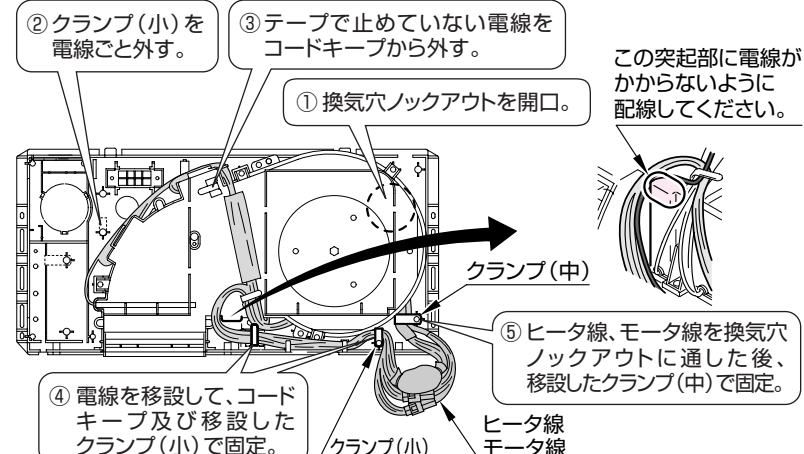
コーキング

塩ビ鋼板の場合下穴はφ2.8㎜以下、ねじは手締めのこと。本体固定強度が低下するおそれがあります。
TOTO以外のシステムバスで鋼板の厚みが0.45㎜未満の場合は、壁裏補強が必要です。

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、又は金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取付ける
漏電により発火するおそれがあります。

A2−3 室内機取付け準備

①A2−1で決めたダクト位置にあわせて、本体ベースプレートの換気穴ノックアウトを開口します。
②右換気の場合は、電線類の配線と配線を固定するクランプを移設します。
③ヒータ線、モータ線をノックアウトに通します。

左換気の場合

右換気の場合

- 電線はカバーを取付ける時に、かみ込みがないように配線してください。

A2−4 室内機本体の固定

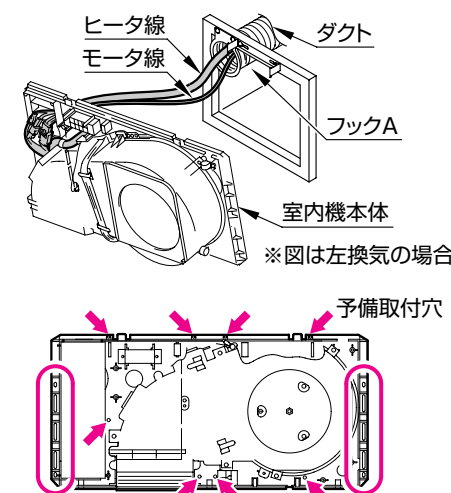
①右図のように室内機本体を、ヒータ線、モータ線をダクトに通しながら、フックAに引っ掛けます。

- 機器の取付けは、確実に行う
また、仮止めのまま放置しない
落下によるけがや器物損壊のおそれがあります。

※図は左換気の場合

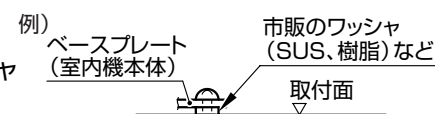
②室内機本体に水準器をあて水平レベルを調整し、A2−1でけがいた本体固定ねじ位置にずれがないか確認します。
ずれがある場合は、けがき直してください。

木枠、タイル目地などに合わせて左右2ヵ所ずつ（計4ヵ所）ねじ止めします。
また、予備取付穴（図の矢印）を使用することもできます。

③下穴を開け、必要に応じ下穴にコーキング剤を注入してアンカーを埋め込み、同梱のタッピンねじ（φ4×50）で固定します。

【タイル壁、モルタル壁に固定する場合】
① 室内機本体固定ねじ位置にφ6㎜の下穴を開け
② 下穴にコーキング剤を注入し同梱のアンカー（赤）を埋め込み
③ 室内機本体を同梱のタッピンねじ（φ4×50）で固定します。

【塩ビ鋼板（システムバスなど）に固定する場合】
① 室内機本体固定ねじ位置にφ2.8㎜の下穴を開け、下穴にコーキング剤を注入し
② 室内機本体を同梱のタッピンねじ（φ4×50）で固定します。

塩ビ鋼板の場合下穴はφ2.8㎜以下、ねじは手締めのこと。本体固定強度が低下するおそれがあります。
TOTO以外のシステムバスで鋼板の厚みが0.45㎜未満の場合は、壁裏補強が必要です。

【既設の木枠が浴室壁面から凸または凹となっている場合】
「A1.施工前の確認」7−（8）項を参照し取付板を準備するか、市販のワッシャなどで段差を解消してください。

④カバーを化粧ねじで固定します。 電線をかみ込まないよう注意してください。

A3 室外機の取付け

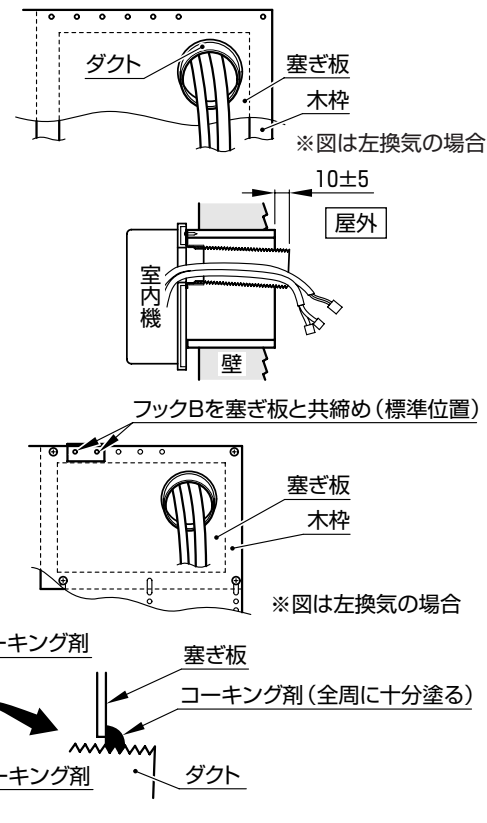
A3−1 塞ぎ板とフックB取付け

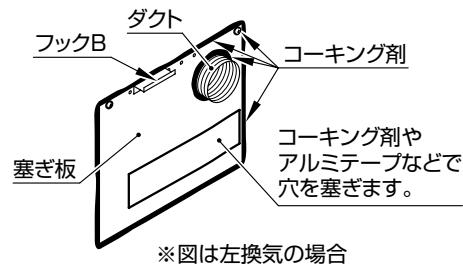
①塞ぎ板を、開口をダクト位置に合わせ、既設の木枠を塞ぐように同梱のタッピンねじ（φ4×50）で取付けます。このとき、ダクトが浴室から屋外に向かって1/100〜5/100程度下り勾配となるように取付けてください。

②ダクトの外壁からの出代を10±5㎜に調節します。

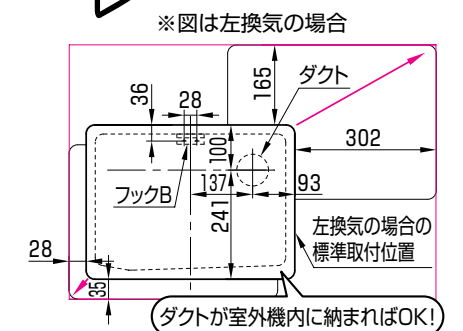
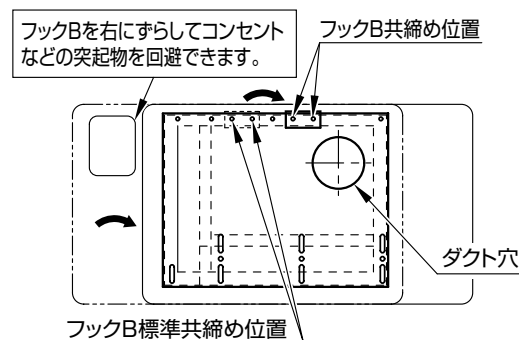
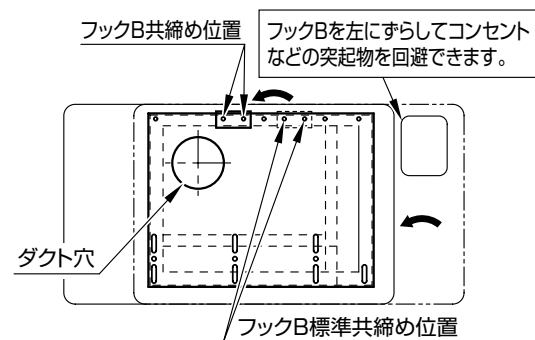
※ダクトの長さを壁の厚さと同じにしていると、出代が10±5㎜になります。

③フックBを同梱のタッピンねじ（φ4×50）で、塞ぎ板と共締めして取付けます。

④ダクト周囲にコーキング剤を塗布してダクトを固定します。

【新規開口の場合】

- 塞ぎ板は必ずしも必要ではありません。（塞ぎ板を使用するとフックBの位置決めをしやすくなります）
- 開口部内に水、湿気が浸入しないよう、ダクト周辺、ねじ穴を十分コーキングしてください。また塞ぎ板を使用した場合には、右図のように塞ぎ板周囲もコーキングしてください。

※図は左換気の場合

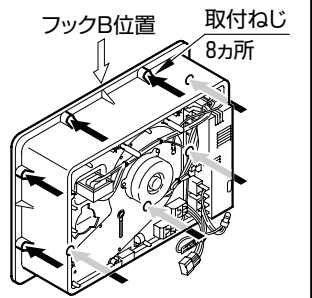
【室外機を標準位置に取付けできない場合】

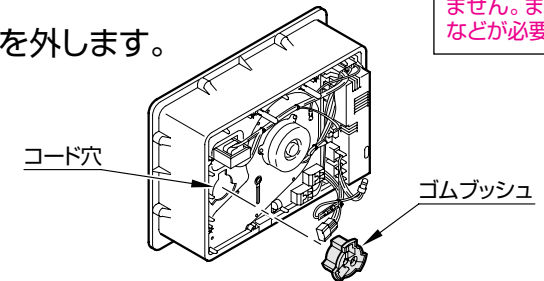
- 室外機は、右図の赤線の枠内でオフセットして取付け可能です。（ただし、木枠を塞ぐなどの別途工事が必要になる場合があります）
  ※右図は左換気の場合です。右換気の場合は左右対称の位置関係になります。
- 下図のように、フックBの塞ぎ板への共締め位置をずらすことにより、28㎜ピッチで最大84㎜室外機を水平方向にずらして取付けることができます。

左換気の場合 / 右換気の場合

【木枠が壁面から凸となっている場合】

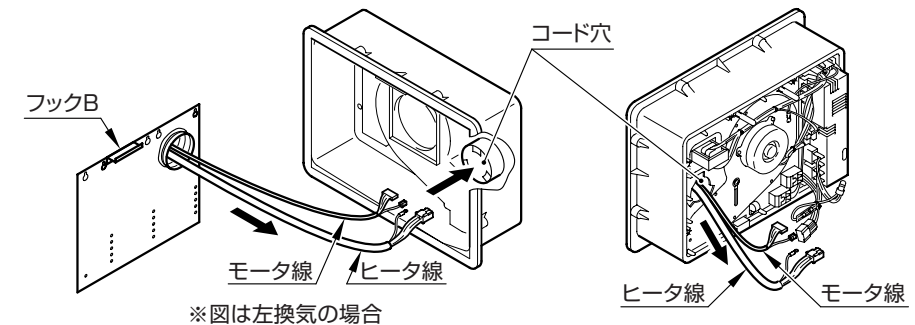
- 「A1 施工前の確認」の7ー(8)項を参照

A3−2 室外機本体の取付け

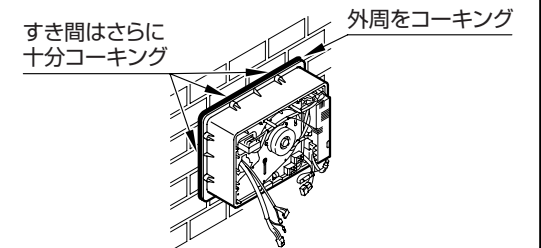
①必要に応じ、室外機本体取付ねじ位置に下穴（8ヵ所）を開けコーキング剤を注入し、アンカーを挿入します。

- 室外機本体をフックBに引っ掛け、取付ねじ位置をけがきます。
- 室外機本体をフックBから外し、取付ねじ位置に下穴を開けます。
  ※同梱のアンカー（赤）を使用する場合はφ6㎜、深さ40㎜以上の下穴を開けてください。
- 下穴にコーキング剤を注入し、アンカーを挿入します。
  ※同梱のアンカー（赤）は、モルタル、コンクリート用です。

壁が室外機本体の質量（3.8kg）を支持できない場合は、取付できません。または、別途壁の補強工事などが必要です。

②室外機本体のコード穴からゴムブッシュを外します。

③コード穴にヒータ線、モータ線を通し、室外機本体をフックBに引っ掛けます。

※図は左換気の場合

④室外機本体を同梱の座金をつけたタッピンねじ（φ4×50）で固定します。

⑤室外機本体の周囲をコーキング剤でシールします。

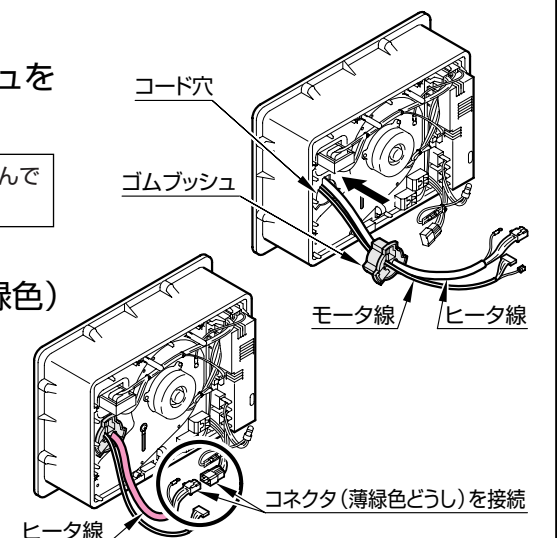
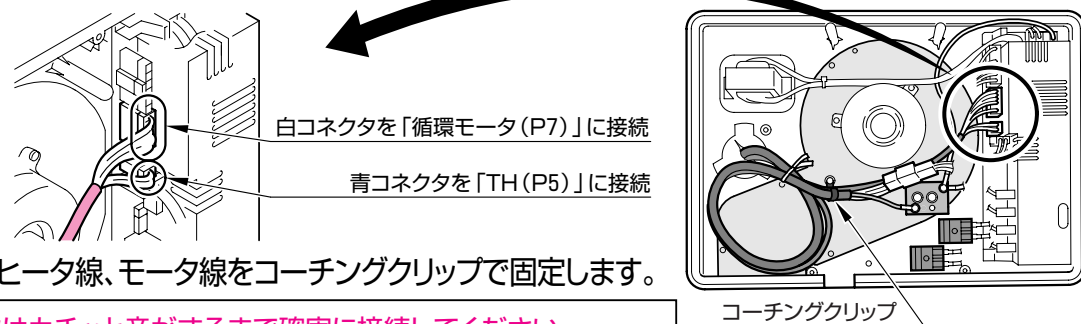
⚠注意

- 機器の取付けは、確実に行う
  また、仮止めのまま放置しない
  落下によるけがや器物損壊のおそれがあります。

A4 電気工事

A4−1 ヒータ線、モータ線の接続

①ヒータ線、モータ線をゴムブッシュに挟み、ゴムブッシュをコード穴にはめ込みます。

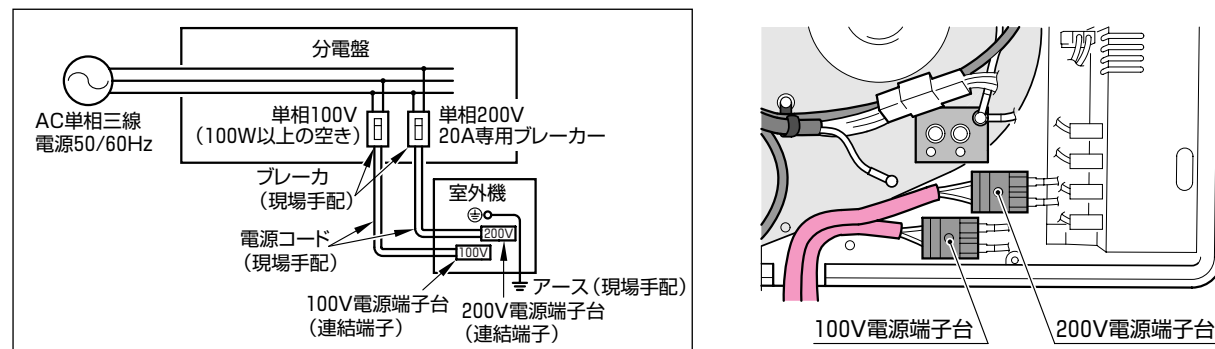
ヒータ線、モータ線を引張りながら、ゴムブッシュをコード穴に奥まで確実にはめ込んでください。すき間から結露水が浸入し、故障のおそれがあります。

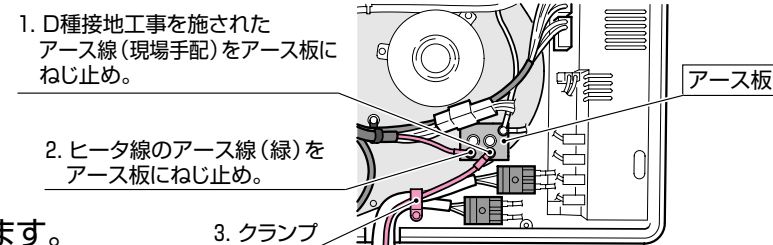
②ヒータ線のコネクタ（薄緑色）を、室外機のコネクタ（薄緑色）と接続します。

③モータ線のコネクタ（白,青）を、室外機にある本体基板上のコネクタ2ヵ所（それぞれ「循環モータ」および「TH」）に接続します。

④右図のようにしてヒータ線、モータ線をコーチングクリップで固定します。

- 全てのコネクタはカチッと音がするまで確実に接続してください。
- 電線は室外機ふたを閉める時に、かみ込みがないように配線してください。

A4−2 電源線、アース線の接続

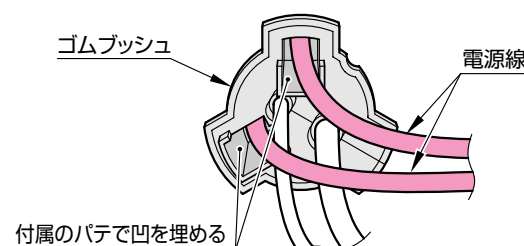
⚠警告	
	● 電気工事は、電気工事業者に依頼する 感電のおそれがあります。
	● 漏電遮断器を取付ける 感電のおそれがあります。
	● 電源コードはφ2㎜の単線（VVFケーブル）を使用し、確実に接続する より線は使わない 火災のおそれがあります。
	● D種接地工事（アース）を行う 感電のおそれがあります。

①100Vおよび200V電源線を室外機下部の切り込みから引込み、それぞれの電源端子台に接続します。

重要

②右図のようにアース線をアース板に接続します（2ヵ所）。

③電源線、アース線をクランプで固定します。

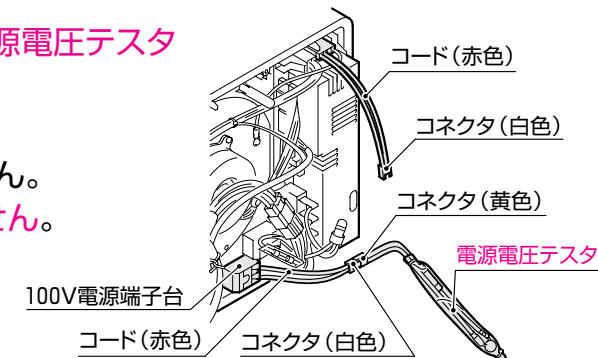
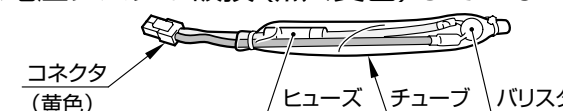
【電源線を室外機内部から引き出す場合】

① ゴムブッシュの凹部に切込みを入れ電源線を通します。
② 水が浸入しないよう、ゴムブッシュの凹部を付属のパテで埋めます。

ゴムブッシュに電源線を通した場合、付属のパテで凹部を確実に埋めてください。結露水が浸入し、機器故障のおそれがあります。

A4−3 電源投入［重要］

⚠警告 ● カバーや室外機ふたを外しているときは、電源（ブレーカ）を切る
感電するおそれがあります。

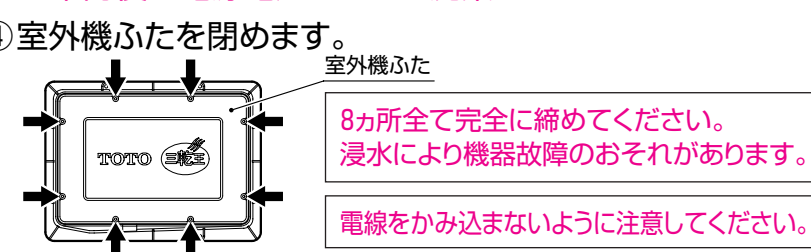
100V電源ラインに200Vを誤印加しないよう、電源電圧テスタによる確認機構を設けています。

※ 工場出荷時100V電源ラインは接続していません。
以下の手順にて接続しないと本体は動作しません。

①200V、100V電源（ブレーカ）をONにし、すぐにいったんOFFにします。
②電源電圧テスタが破損（黒く変色）していないか確認します。

※破損している場合は電源誤接続です。
電源を確認し、接続し直してください。

③【重要】電源電圧テスタを外し、コネクタ白（100V電源端子台）とコネクタ白（基板）を接続します。
※ 確認後の電源電圧テスタは廃棄してください。

④室外機ふたを閉めます。

8ヵ所全て完全に締めてください。
浸水により機器故障のおそれがあります。

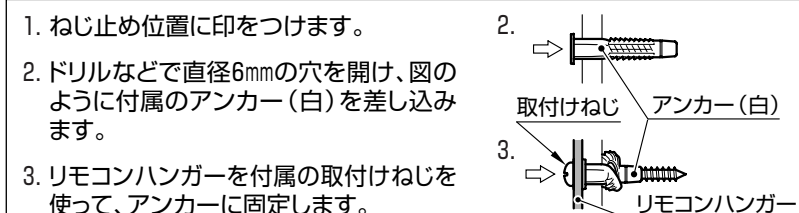
電線をかみ込まないように注意してください。

⑤200V、100V電源（ブレーカ）をONにします。

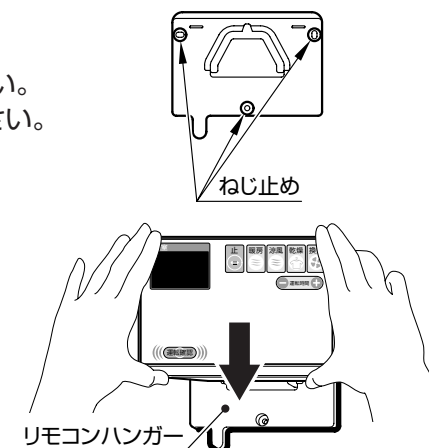
A5 リモコンの取付け

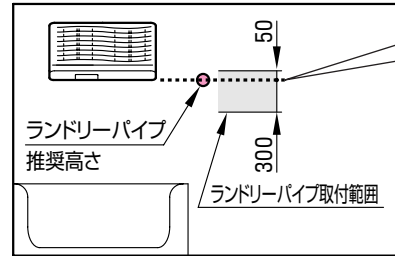
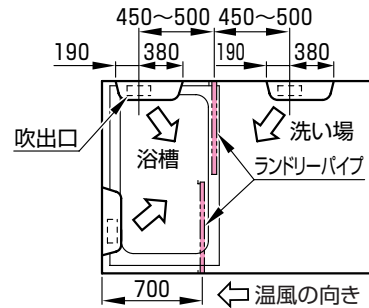
リモコンは浴室の中や水がかかるところに設置しないでください。防水仕様ではありません。

①リモコンに同梱のアルカリ単3乾電池を入れます。（TYR265型用メインリモコンの場合は不要です。）
②リモコン取付位置にて本体が動作することを確認します。
- 電波が届く距離は、壁の構造（鉄筋の有無）や家具（スチール家具など）の有無により変わります。
- 電波が届く位置に設置してください。

③リモコン取付位置に、リモコンハンガーを取付けます。
- 柱など強度があるところには、付属の取付けねじで直接固定してください。
- 石膏ボードなど強度がないところでは、以下のようにして固定してください。

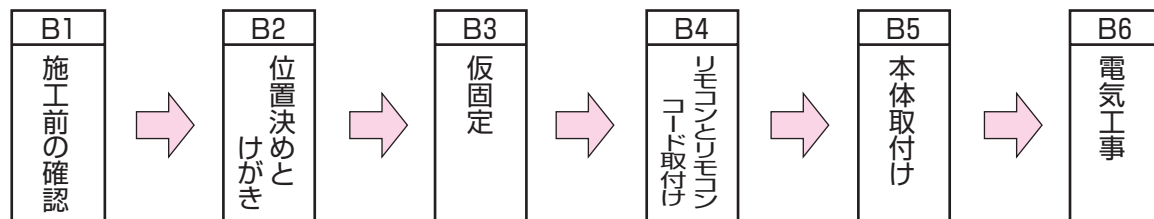
1. ねじ止め位置に印をつけます。
2. ドリルなどで直径6㎜の穴を開け、図のように付属のアンカー（白）を差し込みます。
3. リモコンハンガーを付属の取付けねじを使って、アンカーに固定します。

④リモコンを、リモコンハンガーに確実に取付けます。
- リモコンを落さないよう注意してください。

⑤TYR261型の場合、サブリモコンを同じ要領で取付けます。

A6 ランドリーパイプ（別売品）の取付け

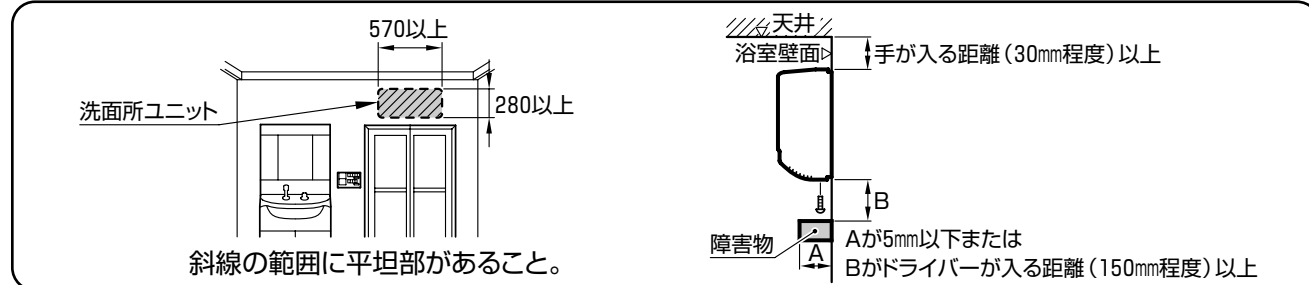
● ランドリーパイプ（別売品）に同梱の取付説明書を参照の上、下図推奨位置に取付けてください。

ランドリーパイプの取付高さは浴室ユニット室内機の下端位置をめやすに、現場の状況、使い勝手に合わせて左図の範囲で調節してください。

B. 洗面所ユニットの施工方法（TYR265型／266型の場合）

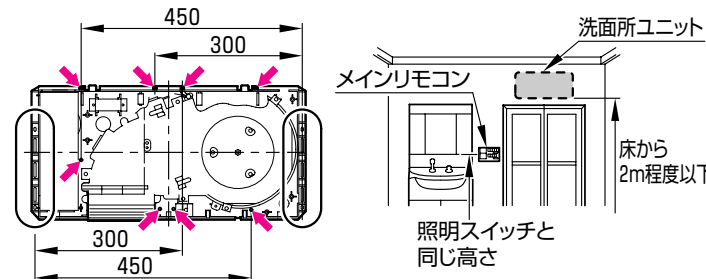
お願い
● ガスレンジの上など高温になる場所に取付けないでください。故障のおそれがあります。

施工手順

B1 施工前の確認

■洗面所ユニットの設置条件

1. 壁面に本体取付可能な平坦部があること。また、施工やメンテナンスを妨げる障害物がないこと。

2. 以下のような場合には、現場手配にて別途工事が必要になります。
 （1）壁が土壁などで、本体の質量を支持できない場合→壁の補強工事などが必要です。[洗面所ユニット:5.7kg]
 （2）分電盤に100V、20Aの空きブレーカがない場合→エンクロブレーカ（単体露出工事用小ブレーカ）などの設置が必要です。
 （3）ブレーカ容量（契約電流）が足りない場合→所轄の電力会社へ連絡し、契約電流の変更が必要です。
  [TYR265型／266型の場合50A以上の契約をおすすめします]

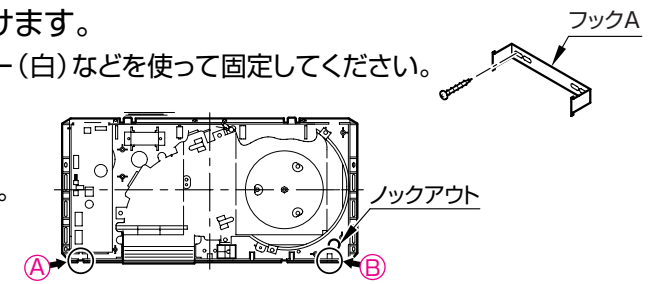
B2 位置決めとけがき

①洗面所ユニットの取付位置を決めます。
 ●「B1 施工前の確認」を参照し、取付位置を決めます。
 ●取付位置に自由度がある場合は、右図の位置をお勧めします。

②同梱の型紙を使用して、フックA、本体の固定ねじ位置をけがきます。

上図の円内の取付け穴から、約300㎜、約450㎜ピッチに予備取付穴（矢印）があります。
4ヵ所以上で固定し、うち2ヵ所以上を間柱に固定してください。

B3 仮固定

①フックAを同梱のタッピンねじ（φ4×35）で取付けます。
 ● できるだけ間柱に固定し、できない場合は同梱のアンカー（白）などを使って固定してください。
 ● 同梱のアンカー（白）の下穴はφ6㎜です。

②リモコンコードの取り出し位置を決めます。
 ● 右下（Ⓑ）から取り出す場合は、ノックアウトを開口します。

③本体をフックAに引っ掛けます。

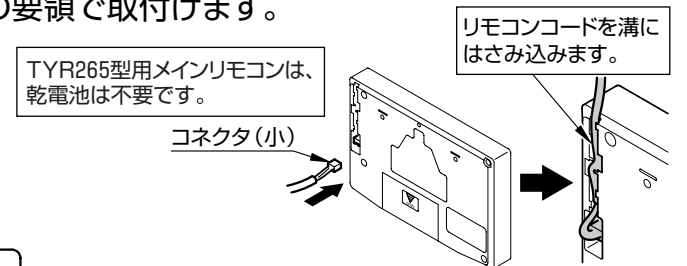
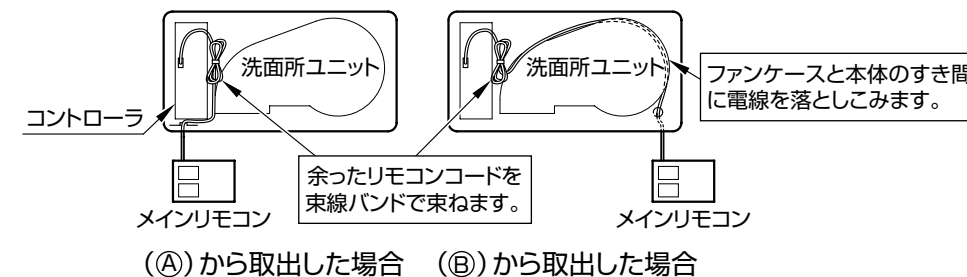
B4 リモコンとリモコンコード取付け

①リモコンハンガーを「A5 リモコンの取付け」の要領で取付けます。

②本体からリモコンコードを配線し、リモコンに接続します。
※別売品リモコンコード（6m）：TYR524型

TYR265型用メインリモコンは、乾電池は不要です。

コネクタ（小）

リモコンコードを溝にはさみ込みます。

③余ったリモコンコードを束ね、本体に納めます。

⑤TYR266型の場合、サブリモコンを「A5 リモコンの取付け」の要領で取付けます。

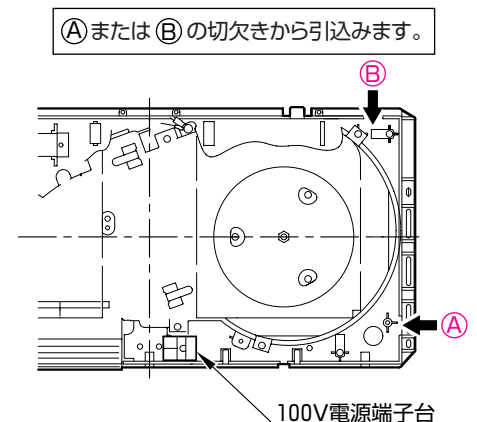
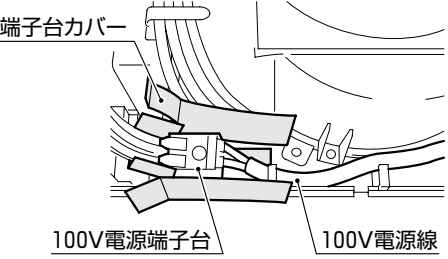
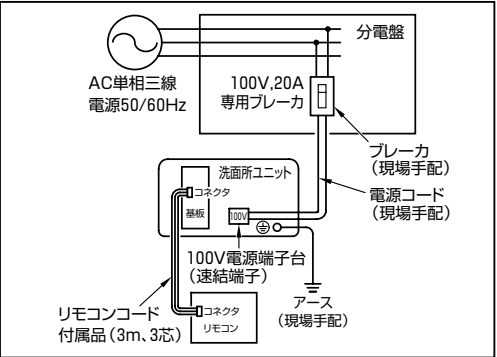
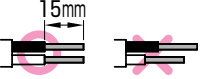
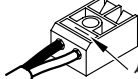
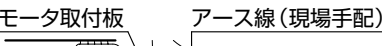
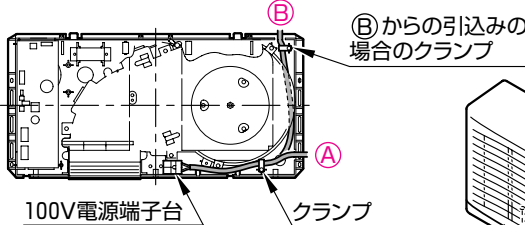
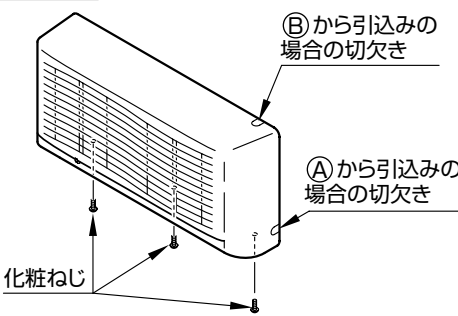
B5 本体取付け

①本体に水準器をあて水平レベルを確認しながら同梱のタッピンねじ（φ4×35）で固定します。
 ● 2ヵ所以上を間柱に固定し、間柱に固定できない場合は同梱のアンカー（白）などを使って固定してください。
 ● 同梱のアンカー（白）の下穴はφ6㎜です。

⚠注意
● 機器の取付けは、確実に行う
また、仮止めのまま放置しない
落下によるけがや器物損壊のおそれがあります。

B6 電気工事

⚠警告
● 電気工事は、電気工事業者に依頼する
感電のおそれがあります。
● 漏電遮断器を取付ける
感電のおそれがあります。
● 電源コードはφ2㎜の単線（VVFケーブル）を使用し、確実に接続する。より線は使わない
火災のおそれがあります。
● D種接地工事（アース）を行う
感電のおそれがあります。

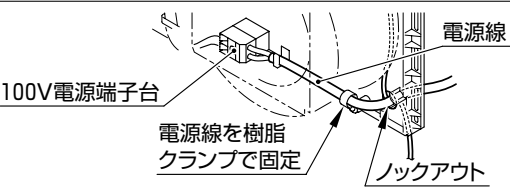
①電源線の本体内への引込み口を決めます。（露出配線の場合）

②端子台カバーを開けて電源端子台に電源線を接続します。

重要

③アース線(現場手配)を接続し、電源線、アース線をクランプで固定します。

④端子台カバーを閉めます。

⑤カバーの電源線引込み口用ノックアウトを切欠き(露出配線の場合)、カバーを化粧ネジで固定します。

電線類をかみ込まないよう注意してください。異音や振動の原因となります。

⑥電源(ブレーカ)を投入します。

⚠警告
- カバーや室外機ふたを外しているときは、電源(ブレーカ)を切る
感電するおそれがあります。

【電源線を壁埋込みで敷設する場合】
- 本体を本固定する前に、ノックアウトから電源線を引込んでください。

試　運　転

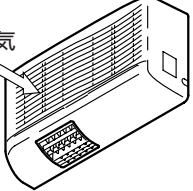
⚠注意
- 運転中、ファンやルーバーに触れたり、物を差込まない
回転でけがをするおそれがあります。

■浴室ユニットの動作確認

(1)暖房・乾燥　「浴室」の「暖房」または「乾燥」ボタンを押して室内機本体の吹出口から温風が出ていることを確認してください。このとき液晶には「暖房」または「乾燥」が表示されます。「止」ボタンを押して停止を確認してください。
※ルーバーを洗い場の床付近に向けてください。

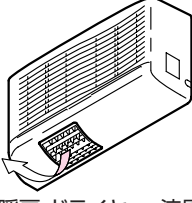
暖房・乾燥・涼風

(2)換　　気　「浴室」の「換気」ボタンを押して室内機本体の吸込口から換気していることを確認してください。このとき液晶には「換気」が表示されます。
「止」ボタンを押して停止を確認してください。

(3)涼　　風　「浴室」の「涼風」ボタンを押して室内機本体の吹出口から風が出ていることを確認してください。このとき液晶には「涼風」が表示されます。
「止」ボタンを押して停止を確認してください。

■洗面所ユニットの動作確認

(1)暖　　房　「洗面所」の「暖房」ボタンを押して本体の吹出口から温風が出ていることを確認してください。
このとき液晶には「暖房」が表示されます。「止」ボタンを押して停止を確認してください。

(2)ドライヤー　「洗面所」の「ドライヤー」ボタンを押して本体の吹出口から温風が出ていることを確認してください。このとき液晶には「ドライヤー」が表示されます。
「止」ボタンを押して停止を確認してください。

(3)涼　　風　「洗面所」の「涼風」ボタンを押して室内機本体の吹出口から風が出ていることを確認してください。このとき液晶には「涼風」が表示されます。
「止」ボタンを押して停止を確認してください。

暖房・ドライヤー・涼風

- 暖房や乾燥運転の直後はすぐには温風は出ません。徐々に温度が上がっていきます。
- 運転停止後は機器の保護のため約10秒間運転が継続する場合があります。

■試運転のあとは　同梱の「取扱説明書(保証書付)」に記入の上お客様にお渡しし、使い方について説明してください。

試運転時のチェックポイント

動作不具合の内容	チェックポイント
リモコンに表示が出ない	■ TYR260型用メインリモコン、TYR260型用サブリモコン、TYR265型用サブリモコンの場合 アルカリ単3乾電池を正しい向きに入れていますか?古い乾電池を入れていませんか? →同梱のアルカリ単3乾電池を、正しい向きに入れてください。
	■ TYR265型用メインリモコンの場合 洗面所ユニットとリモコンを、リモコンコードで確実に接続してしますか? →「B4 リモコンとリモコンコード取付け」を参照し、確実に接続してください。
	■ TYR265型用メインリモコンの場合 リモコンコードを誤って切断していませんか?　→断線が確認された場合は部品交換してください。
洗面所ユニットが動作しない	洗面所ユニットの電源は正しく接続されていますか?電源はONになっていますか? →電源を正しく接続し、電源をONにしてください。
浴室ユニットが動作しない	浴室ユニットの100V電源は正しく接続されていますか?ブレーカはONになっていますか? →「A4−2 電源線、アース線の接続」を参照し、電源を正しく接続しブレーカを投入してください。
	浴室ユニット室外機の電源電圧テスタを外していますか? →「A4−3　電源投入」を参照し電源電圧テスタを外し、100V電源端子台と本体基板間のコネクタを接続してください。
異常音、振動がある	本体がしっかり壁に取付いていますか?　→しっかり固定してください。
	ファンに段ボールなどが詰まっていませんか?　→詰まっていたら取り除いてください。
	カバーが電線をかみ込んで浮いていませんか? →内部の電線がカバーに当たらないよう整線し直してください。
リモコンにエラー「E03」または「E08」が出る。	浴室ユニットのモータ線を確実に接続していますか? →「A2−3 室内機取付け準備」「A4−1 ヒータ線、モータ線の接続」を参照し、モータ線の両側のコネクタを確実に接続してください。エラー表示は浴室ユニットの100V電源をリセット(OFF後ON)し、リモコンの運転確認スイッチを押して解除してください。
リモコンにエラー「E07」が出る。	リモコンの運転確認スイッチを押すと解除されますか? 浴室ユニットの200V電源(ブレーカ)がOFFになっていませんか? →いったん浴室ユニットの100V電源をOFFにした後、①200V,②100V電源の順に再投入してください。 その後リモコンの運転確認スイッチを押してエラー表示を解除してください。
	浴室ユニットのヒータ線を確実に接続していますか? →「A2−3　室内機取付け準備」「A4−1　ヒータ線、モータ線の接続」を参照し、ヒータ線の両側のコネクタを確実に接続してください。エラー表示は浴室ユニットの100V電源をリセット(OFF後ON)し、リモコンの運転確認スイッチを押して解除してください。

■修理の依頼をされるときは　TOTOメンテナンス(株) 0120−1010−05(フリーダイヤル)にご連絡ください。
受付時間(年中無休):関東、甲信越地区　8:00〜20:00
:上記以外の地区　9:00〜20:00